

◆研究概要等

地理学の中でも歴史地理学や文化地理学を専門としています。学生時代から河川利用や水質に関心があり, 地形学や水文学, 河川工学などの自然地理学分野の知識や手法も学びましたが, 卒業論文から今日まで河川舟運(水運)をメインの研究テーマにしています。「日本の河川は急流で舟運に向かない」と考えられていますが, 諸外国と比べたら「舟(船舶)の航行」には適していないのかもしれませんが, 日本においても時代や地域によって様々な舟運が行われ, 「向かない」とは言い切れません。そこで, どこで・どのように・いつまで舟運が行われていたのか/いるのか, 舟運の時代的変化・地域的変化を明らかにするために, GIS(地理情報システム)を用いて分析しています。

GISを用いた研究アプローチは地理学にとどまらず, 文系・理系を問わず, 様々な学問分野で導入されています。環境・まちづくり系専攻ではGISの知識やスキルを習得するためのカリキュラムがあり, 「GIS学術士」資格を取得できます。

環境・まちづくり系専攻
地理学・地理情報科学研究室
准教授

いづか たかふさ
飯塚 公藤

iizuka@socio.kindai.ac.jp



<http://researchmap.jp/takafusaiizuka>



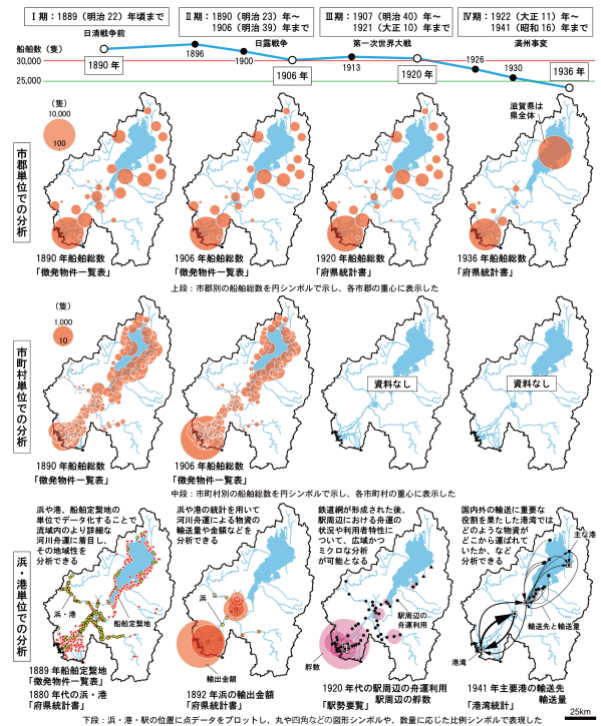
写真 英国・ポントカサステ水路橋と運河

■研究テーマ等

1. 水陸交通に関する歴史GIS研究

日本や海外の河川で, どのように船を利用して舟運を行ってきたのか, また陸上交通との関係性や地域差について研究しています。これまで琵琶湖を含む淀川流域や利根川流域, 木曾三川流域を対象に比較研究を行いました。日本国内でも舟運の地域差が見られました。船舶総数に着目すると淀川流域では1890(明治23)年の32,664隻から1936(昭和11)年の23,633隻へと46年間で約9千隻減少しましたが(右図), 利根川流域では明治期だけで約1万1千隻も減少し, 衰退の度合いに差があることがわかりました。現在, 日本と英国の水陸交通の地域的変化について研究しています。

右図 淀川流域における河川舟運の盛衰過程



2. 景観・まちづくりに関するGIS研究

2008・2009年度にかけて京都市で実施した「第III期京町家まちづくり調査」（56,000軒調査）に従事した経験から、京町家や近代建築などの建築物、景観重要建造物に関心があります。京町家は京都の景観を構成する重要な要素の一つであり、この調査では、市民ボランティアを含む延べ3,300人の調査員とともに、京町家を1軒1軒調査し、京町家GISデータベースを構築しました。その結果、47,735軒現存することがわかりました。構築したGISデータベースは京都市の景観政策に活かされていますが、空き

家や老朽化している京町家も多く、後に実施された調査結果によれば、2016年度には5,602軒が減失したことがわかっています。また、京都市内では民泊ブームやインバウンドによるオーバーツーリズム、コロナ禍などの影響により、景観・まちづくりの面においても著しい変化が生じています。こうした歴史都市京都の変化を継続的に研究するとともに、日本国内の景観・まちづくりについてもGISを用いながら様々なスケールで研究に取り組んでいます。近年では、京都・鴨川の古写真アーカイブや景観・河川利用の変化についての研究も進めています。

●論文・作品・表彰・特許等

- (1) 飯塚公藤『近代河川舟運のGIS分析－淀川流域を中心に－』古今書院，2020年
- (2) 加藤一誠・河原典史・飯塚公藤・河原和之『日本あっちこっち－「データ+地図」で読み解く地域のすがた－』清水書院，2021年
- (3) 蔣湧・湯川治敏・駒木伸比古・飯塚隆藤・村山徹・小川勇樹『地域研究のための空間データ分析入門－QGISとPostGISを用いて－』古今書院，2019年
- (4) 千田稔・本多健一・飯塚隆藤・鈴木耕太郎編著『京都まちかど遺産めぐり－なにげない風景から歴史を読み取る－』ナカニシヤ出版，2014年
- (5) 2016年3月：博士（文学，立命館大学）

▲趣味等

まち歩き，フィールドワーク，写真撮影，ドライブ。河川や運河など水辺を歩くこと。猫好き。登録有形文化財や町家，近代建築をはじめ，歴史的建造物が好物。定点観測（同じ場所を歩き，観測・撮影する）。様々な分野・職種の方と地図・GISを使ったコラボレーションをすること。

◆ゼミの宣伝等

飯塚ゼミでは地図やGIS，フィールドワーク，地理学的な研究アプローチに興味がある人を歓迎します。地理学では「足」を使って地域を歩き，地域を観察する（見つめる）ことが基本ですが，それだけではなく，「手」を動かすことも大切です。具体的には調査で得られた研究材料をデータ化し，GISを用いた空間分析や地図化をすることです。飯塚は「どんなテーマでもGISで分析・研究できる」と考えており，「GIS学士を取得したい人」，「GISを使う人」を求めています。飯塚ゼミでは全員がGISを使って卒業研究に取り組み（一人一人にGISの指導も行う），全員がGIS学士取得を目指しています。主に以下の3つの活動を予定しています。

- (1) GISを用いた地図化・可視化・空間分析手法について学ぶ。ArcGISやQGISなどのGISソフトウェアをはじめ，様々なアプリを用いながら，GISの可能性について議論します。
- (2) 大学周辺や近隣地域でのフィールドワーク（日帰り）を実施します。
- (3) 京都市をはじめ，様々な地域におけるフィールドワーク（宿泊を伴う）を実施します。フィールドワークの実施地域はゼミ生と相談しながら選定します。これまで福岡県福岡市，長崎県小値賀島，香川県小豆島などを訪れました。「地域調査士」資格を取得したい人も飯塚ゼミへ。